

動物の診察室から

〇 76 〇



公園で走り回っていたころの小梅ちゃん



昨年暮れに、骨肉腫のため断脚手術を行ったウルフハウンドの小梅が、5月の最後の日曜日の朝、亡くなりました。結局は安楽死でした。

犬の骨肉腫は大変な痛みがあります。骨肉腫と診断されたときには既に転移があると言われることが、四肢にできた場合には、痛みを取る目的で断

## 腫瘍の痛み耐え頑張る

脚手術を行います。そして、抗がん剤の治療になるのですが、治療を行ってもほとんどの犬は半年以内に死んでしまいます。

小梅は私の犬で、まだ5歳でした。輸血が必要な動物に小梅の血液をもらったこともあり、小梅の血液は多くの犬の命を救ってきました。

小梅には断脚後、抗がん剤の投与を3回行い、2月には大好きだった鳥屋野潟公園で、3本の足で元気に走れるようになっていました。しかし4月になり、骨肉腫は反対側の骨盤に転移したので

小梅には断脚後、抗がん剤の投与を3回行い、2月には大好きだった鳥屋野潟公園で、3本の足で元気に走れるようになっていました。しかし4月になり、骨肉腫は反対側の骨盤に転移したので

この以上手術はできません。痛みを取る処置をするのですが、骨肉腫の痛みはモルヒネでも取ることができない強烈な痛みです。

小梅には一番痛みが取れる麻薬のフェンタニールの貼り薬を使いました。これを貼ると1週間効果が持続します。その

他の鎮痛剤も併用し、鎮静剤で眠れるようにもしました。元気なときは、部屋にあるトイレで上手に用を足していました。そして、転移があっても、動く痛みは抑えられて用を足そうとしまし、大きな布団にトイレシートを敷いてあげるのですが、トイレに行こうと立ち上がるのです。もう5月に入り肺にも転移したようでした。もう薬にしてあげようと思いましたが、私の手からおいしそうなほりほりとポテトを食べる姿を見ると、食事ができる間は生きてほしいと小梅に添い寝をしていました。